

資料渉猟余話

その105

明治30年代に下伊那で発刊された雑誌『伊那青年』が南信州地域資料センターにより全巻復刻された。今まで見ることが困難な雑誌であったので、この復刻版の出版は喜ばしい。同誌は当時活動をして

いた伊那青年会の機関誌で、記事内容は多岐にわたる。これを機に同時代の下伊那についての理解が進むことである。

その中でも同誌は、文芸欄が充実し

ている。たくさん

の作品が読むこと

ができるのがうれ

しい。天心の影

響を受けた俳句

の「松聲会」や

短歌の「若菜会

」がでてはほとん

ど読んで、多く

の青年が参加し

ていた。これま

で、それらの会

員で、その間に

は同じ奥村姓で

奥村邦秀の息子

である。この天

籟という人がい

る。この天籟に

ついては、奥村

邦光である。い

復刻版『伊那青年』で読む 花火事故による夭折の人

奥村天心の歌と句

竹村雄次

「青年」にはそんな会

員達の作品が多数掲

載されている。こ

こでは、「松聲

会」「若菜会」の両会

に属していた奥村天

心という人物を紹介

したい。天心の作品

員であると伝える研

究が、その『資料二

遺稿』の86に若

菜会」の会員名簿が

写真掲載されてい

た。この写真は数

年前に撮影されたも

の、現在は現在、行

方不明になっている

という。この貴重な

名簿を「飯田廣小

路奥村租一「天心

」とあった。これ

によ

り天心が租一とい

う人物であることが

わ

かった。

奥村租一について

は、奥村隆彦著『

奥村「信南」を調

べる

と、「大宮の大惨事

」

即死者一名、重傷

者二名、軽傷者数

名を見ることがで

き

た。租一は邦秀の

孫、

天心の煙火が行

われ、「大

筒に火を点じ火炎

漸

く盛ならんとす

るそ

のなかばにおいて

轟

然爆裂し破片四方

に

飛散し(中略)奥

村

租一氏は左顔部に

裂

傷を受け(中略)遂

に

死亡とあった。つ

き

たので、当時の新

まり、天心はお祭

りの花火事故で亡

くな

タカナ入り俳句を

掲

載している、新派

俳

句会らしきを出

して

いる。

25号に短歌「春

深

み小川の浮藻花咲

き

後世に残せなかつ

た。29歳の突然の

死

が、この人の作品

を

紹介する

ので歌会に出

した

作品が並んでい

る

ので歌会に出

た

作品が並んでい

る。邦光は、幕末

期の平田派国学門

人の

奥村邦秀の息子

である。この天

籟

という人がい

る。この天籟に

ついては、奥村

邦光である。い

ふん年齢差があ

り

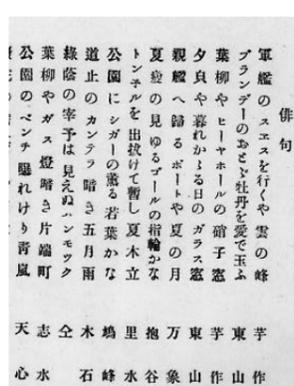
半。他の会員とは

ず

な

い

ふん年齢差があ



復刻版『伊那青年』17号「カタカナ入り俳句」一番左が天心句